

# 令和5年度学校評価

山梨大学教育学部附属中学校 学校評価委員会

## 1 学校評価の目的(第1回学校関係者評議員会・学校関係者評価委員会資料より)

- ① 各学校が,自らの教育活動その他の学校運営について,目指すべき目標を設定し,その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより,学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が,自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表や説明により,適切に説明責任を果たすとともに,保護者,地域住民等から理解と参画を得て,学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が,学校評価の結果に応じて,学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより,一定水準の教育の質を保証し,その向上を図ること。

## 2 学校評価の方法

上記目的の①,②を受けて,本校としては次の考えに基づいて評価を行った。

### 【自己評価】

全教職員による自己評価は,後述する**9領域11項目**について,4段階による評価(A:できている・B:概ねできている・C:あまりできていない・D:できていない)を行う。

### 【保護者アンケート】

学校の自己評価項目を基に,その内容をより具体化した**6領域13項目**について,全保護者を対象とした,5段階評価によるアンケート調査(①:当てはまる・②:やや当てはまる・③:あまり当てはまらない・④:当てはまらない・⑤:分からない(評価できない))を実施した。

### 【学校関係者評価】

昨年度同様,学校評議員会のメンバーに学校関係者評価委員を兼任していただくようにした。本校の様子をより近くで見えていただいている保護者代表として,PTA会長と第3学年のPTA副会長に加わっていただくことが望ましいと考えるからである。

学校関係者評価は,学校における教育活動の観察や意見交換等を通じて,自己評価の結果や方法について評価することを基本として行った。

## 3 評価項目

これまでと同様に以下の12項目について評価した。

- |       |        |       |              |
|-------|--------|-------|--------------|
| ○教科教育 | ○道徳教育  | ○SELF | ○キャリア教育・特別活動 |
| ○生徒指導 | ○防災・防犯 | ○交通安全 | ○特別支援教育      |
| ○教育相談 | ○組織運営  | ○学校評価 | ○情報化推進       |

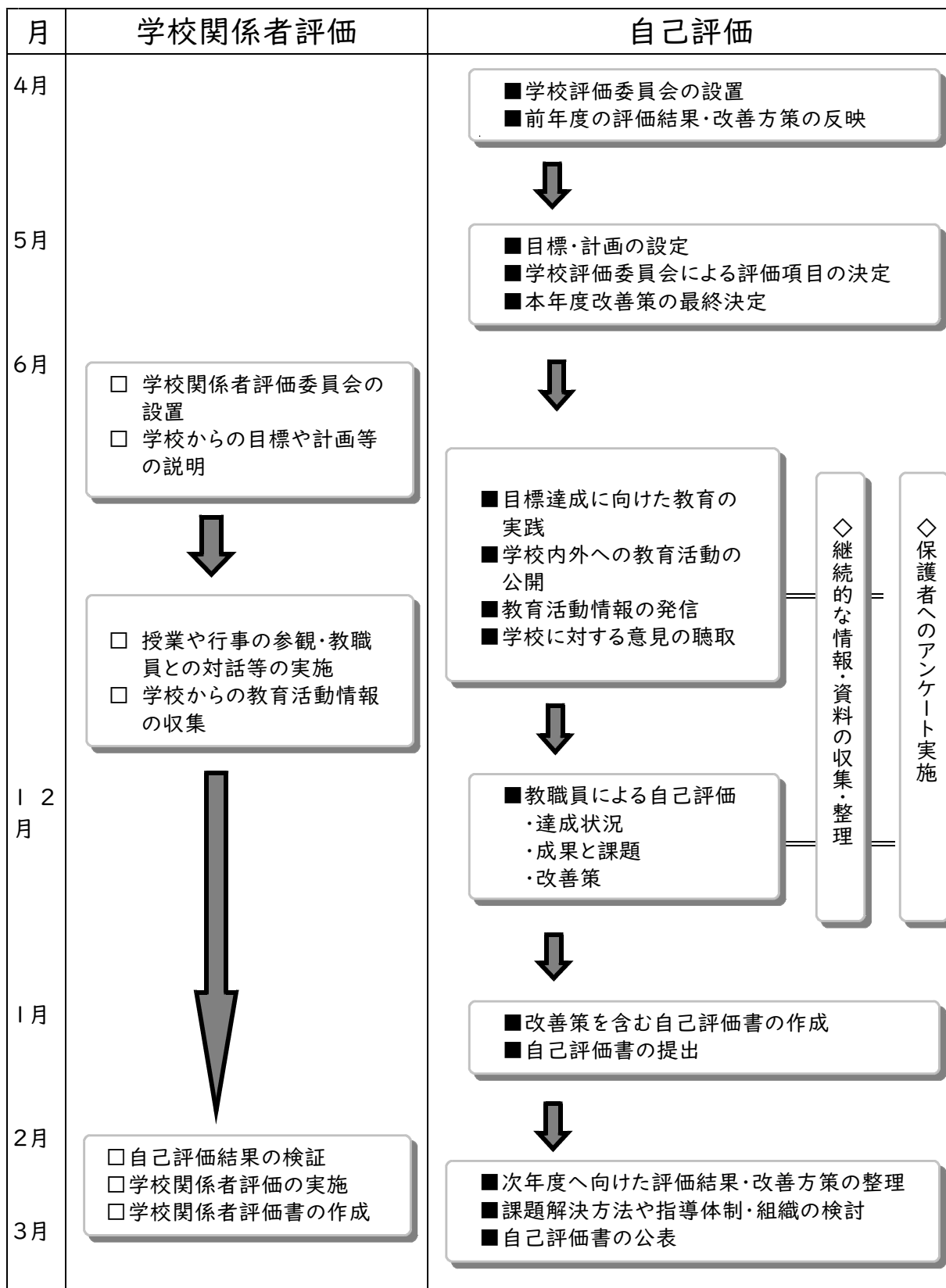
\*学校評価の項目に関しては,保護者アンケートでは対象にせず,職員に評価の仕方の妥当性のみ調査した。

## 4 評価目標・改善策

令和5年度の評価目標・改善策は,令和4年度の学校評価の結果を参考に,拡大学校評価委員会で検討し,作成した。詳細は,《資料1》のとおりである。

# 5 年間計画

## (1) 年間スケジュール



## (2) 学校評価委員会の取組

### <取組経過>

- 第1回学校評価委員会(3月31日 運営委員会)
  - ・学校評価の目的と方法の確認
  - ・前年度の評価結果と改善方策の確認
  - ・評価項目と評価指標の原案作成
  - ・目標と年間計画の決定
- 第1回・第3回職員会議で全職員へ(4月3日・5日)
- 第2回学校評価委員会(4月12日 第4回職員会議)
  - ・本年度の具体的な対応・取り組みの検討
- 第1回拡大学校評価委員会(4月13日～5月2日)
  - ・各評価項目担当者が集まり評価指標と改善策の最終決定
- 第5回職員会議で全職員へ(5月17日)
- 6月～12月
  - ・継続的な情報・資料の収集・整理
  - ・全方位的な点検・評価と日常的な点検
- 第3回学校評価委員会(8月23日 第8回職員会議)
  - ・自己評価の実施に向けた自己評価書の様式・記述内容の検討
  - ・自己評価調書(中間報告)作成
- 第3回学校評価委員会(11月15日・29日・12月6日 企画委員会)
  - ・自己評価調書の記述内容確認
  - ・保護者アンケートの内容決定
- 11月～12月
  - ・保護者アンケートの実施と集計  
(11月22日「12月6日までにGoogleフォームで回答」)
  - ・自己評価調書の配付と集計  
(12月13日「1月5日までにGoogleフォームで回答」)
- 第4回学校評価委員会(1月24日 企画委員会)
  - ・自己評価調書と自己評価書の完成に向けた日程確認
- 第14回職員会議にて全職員で確認(2月15日)
- 第2回拡大学校評価委員会(3月4日～3月12日)
  - ・自己評価調書の内容検討
  - ・次年度改善方策原案の検討
- 第15回職員会議にて次年度改善方策原案を全職員で最終確認(3月13日)
- 第3回拡大学校評価委員会(3月14日～3月22日)
  - ・次年度改善方策の主な取組計画原案の作成

## (3) 学校関係者評価委員会の取組

- 第1回学校関係者評価委員会(6月2日)
  - ・学校評価・学校関係者評価の概要説明
  - ・本年度の評価目標・改善策と評価委員会の活動予定の確認
  - ・学校関係者評価委員会評価書(外部評価書)の説明
  - ・質疑応答
- 第2回学校関係者評価委員会(3月1日)・・・本日
  - ・自己評価及び保護者アンケートの結果説明
  - ・学校関係者評価委員会評価書(外部評価書)の作成
  - ・次年度の改善に向けた助言

## 6 学校評価結果のまとめ

【自己評価】…《資料1》参照

令和5年度学校評価(自己評価)は、本年度改善策の取組状況に対して教職員が自己評価をしたものである。改善策の設定にあたっては、まず、昨年の取組で課題となった点を抽出し、次に、その課題を改善するために本年度の目標と改善策を設定した。

本年度はコロナ禍からの脱却をスローガンに教育活動をコロナ禍以前に戻すことに取り組んできた。そのような状況の中で、多くの改善策において、■がついている(改善策に取り組んだことを意味する)ということは、大切な点である。しかし、評価(数値)の増加が少なかった(本年度の全項目の平均3.25、昨年度は3.23であった)点について、丁寧に振り返り、更なる改善策を見出したいと考えている。

一昨年度から、自己評価の精度をより一層向上させるため、1つ1つの改善策(合計30)に対して、できていたかどうかを検討し、自己評価の評価値を出すという方法に改めた(それまでは総合評価の箇所のみ評価値を出すという方法だった)。本年度の自己評価の結果を、昨年度のものと比較すると、全体的には評価が0.02ポイント上がった結果(3.23→3.25)であった。

改善策毎に見ていくと、「1 教科教育の授業改善」の「GRIT」についての共通認識の形成が2.7、「4 組織的・系統的なキャリア教育」の学校HPなどを活用しての保護者への情報発信が2.8、「10 組織運営」の行事の精選・縮小が2.9となっており、「概ねできている」とする評価値3を切っている。

非認知能力に関わる「GRIT」\*GRIT=(Guts(度胸) Resilience(復元力) Initiative(自発性) Tenacity(執念))については、多くの教師の理解と授業における実践が図られてきているにも関わらず、成果を実感できない教師が多い。原因として、非認知能力は能力の高まりを見取ることが困難であったり、結果が直ちに表れるものではなかったりするからであると考え。そこで本校では、実践→検証→改善→実践のプロセスを持続的に行うことを大切にしていこうと非認知能力の育成を図っていききたい。この方針のもと、次年度は年度当初から研究主任を中心に全体や教科間で研究会を行い、すべての教師が効果的に活用することができるよう努めていきたい。

また、県内外の先生方に本校の研究内容を定期的に発信し、中等教育研究会をはじめ、本校で開催される研究会にも参加していただけるよう情報発信を行っていききたい。

キャリア教育については、キャリア・パスポートの効果的な活用方法が見出せずじたり、活動の成果を保護者に発信することができずじたり。キャリア・パスポートに記録を残すだけの形式的なものとして、活用していくことが大切である。次年度はキャリア教育主任を中心に学年のキャリア教育担当と定期的に部会を開き情報を共有したり、企業や保護者と連携して、働くことの意義を直接学ぶことができるような体験を計画するなど、他校の実践を参考にしながら活用計画を立てていきたい。

組織運営については、本年度も特定の分掌に業務が偏っていることが課題となった。GIGAスクール構想の実施が進み、多くの教員がICT機器を効果的に活用した授業を展開し、授業改善や業務改善を図れるようになってきた。しかし、生徒に配付している端末の使用が3年目を迎え、複数の端末の機能が低下したり、不具合を起こしたりしている。また、破損やパスワード忘れの訴えがあるたびに情報担当の教員が業者との対応を担う場面が多くなってきている。

さらにコロナ禍以前の教育活動に戻すことで、生徒も充実した学校生活を送ることができているが、桐龍祭や合唱のつどい、中等教育研究会などの行事が全面実施されたことにより、授業以外での教員への負担が増加してしまった。次年度は、分掌を細分化することで業務の効率化を図ったり、特定の教員に業務が偏ることのないように、担当業務の責任範囲や役割を明確に整理するなど適切な職務分掌を行っていききたい。本年度も多くの場面で保護者の協力を得たが、生徒の学びを第一に考えながらも行事の精選や簡素化を図っていききたい。

#### 【保護者アンケート】 《資料2》参照

《資料2》令和5年度の保護者アンケート結果

本年度の保護者アンケート結果を、昨年度のものと比較すると、全体平均は評価が0.31ポイント上がった。(全体平均は3.21→3.52)本年度はコロナ禍以前の教育活動に戻し、授業参観やキャリア教育講演会、桐龍祭などの行事における保護者の参観に関しても一部制限を設けたが、直接教育活動を参観していただく場面を多く設けた影響が大きいと考える。

実際に、「教育課程・学習指導」・「キャリア教育・特別活動」・「生徒指導」の数値が昨年と比較し大きく上昇している。コロナ禍で実施できずにいた対面による集会や講演会も行われるようになった。やはり、講師による生の講演は生徒の心に響き、効果的であると認識するとともに、そのような生徒の活動を保護者の方にも見ていただけたことが学校への理解につながると考える。

また、GIGAスクール構想におけるICT環境の整備・運用が円滑に進んでいることや端末の効果的な活用が教員や生徒に浸透したことにより、授業以外の場面でも教育実践が行われたことの影響もあると考える。

実際に、「生徒指導」・「情報化推進」が昨年と比較し上昇している。しかし、ICT機器を活用した教育実践は効果的に進められている反面、生徒による適切な利用に関しては課題が残ったので、生徒指導主事や情報主任を中心に家庭とも連携して適切に運用していきたい。

本年度は、すべての評価項目で昨年度を上回る結果となったが、「わからない(評価できない)」との回答が10%を越えている項目が7項目もあった。それは、保護者や学校外への情報発信が効果的に行われていないことの表れであると考え。分掌や担当ごとにホームページを活用し、迅速かつ効果的な情報発信に努めていきたい。

#### 【学校関係者評価】 《資料3》参照→本評議員会にて話し合われた内容を記載

## 7 来年度の評価指標・目標・改善策

学校評価委員会では、来年度の改善策として、自己評価12項目の結果と保護者アンケート13項目の結果を考慮に入れ、「令和6年度学校評価 目標・改善策(原案)」を作成する。作成にあたっては、本評議員会からの意見もふまえて、全教職員による拡大学校評価委員会を開催する。ここでの原案は、令和6年度になった時点で、全教職員で再検討し、正式な「令和6年度学校評価 目標・改善策」として決定する。

## 8 評価結果の公表

目標・改善策、自己評価一覧、保護者アンケート結果については、設置者に報告するとともに、次年度のPTA常任委員会及びPTA総会で保護者にも公表する。また、目標・改善策についてはホームページにも掲載する。